

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2794000329		
法人名	株式会社ユーアンドアイプラチナ		
事業所名	グループホームユーアイ緑丘		
所在地	大阪府豊中市西緑丘3-5-2		
自己評価作成日	平成29年5月1日	評価結果市町村受理日	平成29年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4F		
訪問調査日	平成29年5月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は緑丘の住宅地にあり部屋の窓からは箕面の山々が見られ全面には緑丘新池公園があります。また隣接には大型スーパーイオンモールがあり日々の入居者様の買物、散歩のコースになっています。地域性を活かして校区で開催されるふれあいサロン、お食事会、地域住人の体育祭・文化祭、保育所との次世代交流、敬老会、地域公園の清掃など生活範囲を広げるためにも地域社会との触れ合いを積極的に支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊中市の北部に位置する閑静な住宅地に5年前に開設された。ホームの前は四季折々の自然の移り変わりを楽しめる緑丘新池公園がある。、リビング兼食堂と各居室からも目の前の公園の風景を楽しむ事ができる。顔馴染みの保育園児や知り合いの方の姿を見つけたら、即公園へ出かけて、気軽な地域交流が自由にできる環境にある。利用者が日々の生活に変化のある暮らしが持てるように、地域性を活かして近隣の大型スーパーイオンモールへ買い物も兼ねてぶらぶらと館内を見て歩いたり、地域行事の体育祭、文化祭、敬老会、地域保育園児との交流、一斉清掃などには積極的に参加している。職員は利用者と同じ目線に立って一人ひとりの残存能力を大切に、寄り添う介護を目指している。職員間の関係は良好で利用者、家族、職員が一つの家族として位置づけられたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH理念はホーム玄関掲示板に掲示するとともに職員及び新規職員採用の際、GH理念を伝え職員全員で考えるようにしている。	理念の「入居様が地域と共に安心して生活できる環境づくり、1人ひとりをよく知り、心に寄り添うケア」を職員の目のつく玄関に掲示している。人生の先輩である利用者に対して尊厳の念をもって接する大切さを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(文化祭・体育祭・夏祭り・敬老会・クリスマス会、等)に入居者と一緒に参加している。保育所との世代間交流、近隣の公園の清掃、散歩、買物、美容院、等地域社会との交流をもつようにしている。	地域の各種行事(文化祭、夏祭り、敬老会、クリスマス等)には積極的に利用者と一緒に参加したり、近くの公園で保育所園児との触れ合いや地域一斉清掃などに参加している。人形劇、ハーモニカ、歌体操などのボランティアの受け入れをするなど地域の一員として日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	豊中北中部地域福祉ネットワーク会議、地域の施設間の交流、研修会その他活動をとおりて認知症・GHの状況・役目を積極的に語って支援の方法と理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね2か月に1回開催している。入居者近況の報告、入退所状況、行事参加の報告等。出席者からの意見、助言はすぐに実践に繋げている。	会議は校区福祉委員、民生委員、地域包括支援センター、職員の参加で、入居状況、直近の入退所の状況、行事報告などについて報告や話し合いをおこなって、そこでの意見、要望をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はホームの理解を得られる良い機会でもあるので、今後は自治会に加入し、自治会長や家族、利用者の参加を呼びかけるなどして、更なる構成員の拡充が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、ほぼ毎回市町村担当者へ出席いただき現状を報告しアドバイス、情報提供を頂いている。	高齢施策課には施設の運営や実情についての相談や情報収集を行うなど日頃から連絡を密にとり、アドバイスや情報を頂くなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間は見守りは行うが自由に行き来できるようにしている。また職員にも常日頃から拘束の意識付けを周知徹底している。	年間の研修の中にも取り入れて、職員は身体拘束の弊害は理解している。利用者の外への出入りは、即対応して、閉塞感を与えないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等において高齢者虐待の防止について勉強し職員全員が虐待の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護・成年後見人制度について関係機関から情報収集を行い職員会議で語る機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にグループホーム・居室等の見学をして頂きアセスメントをする。理念・方針・年間目標を説明し契約の際は十分に納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常は電話で家族様と話せる機会を持つようにしている。運営推進会議・家族様の来訪時には意見を聞き、それらを運営に反映させて頂いている。	家族の訪問機会も多く、クリスマス会や記念行事には家族との食事会も入れて、気軽に話せる関係構築に努めている。来られない家族にはよく電話をしたり、毎月の「ユーアイ緑丘だより」に職員からのコメントも入れて発送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・リーダーが常日頃から職員の意見は聞くように心掛けている。個人面談の場を設ける等、職員の仕事への意欲にも繋がるので出来るだけ意見を聞くようにし運営に反映している。	月1回のミーティング、フロアーノートなどで日常的に職員の意見、要望、提案を聞く機会を設けて意思疎通を図っている。職員間の関係も良く、現職員からの新人紹介も多く、職員の定着率も良い温かい職場環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として月1回各事業所の管理者が集まり管理者会議を行って職員が意欲をもって働ける様に職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員全員には月1回定期的な研修の場を設けている。外部研修にも個々の職員が積極的に参加できるようにしている。職員一人ひとりの力量に応じて研修資料を配布し日々の介護現場にてトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催の豊中北中部地域ネットワーク会議での活動を通じて同業者と交流の機会を設けている。また地域の施設サービス事業所と定期的な勉強会の場がある。管理者が同業者と情報交換し質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し信頼関係作りに努めている。入居後も利用者本位とし本人の意見を尊重し安心した生活の確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意見や要望はささいな事でも耳を傾けるようにしてます。本人の「安心した生活」のため家族様と一緒に考えて支えていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時本人、家族様よりアセスメントを行い出来ること、出来ないこと、好きな事、嫌いなこととしてほしいこと、してほしくないことを把握し介護計画を作成し支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買物にでかける、食事を一緒に作り一緒に食べる、家事を一緒にする等「個々の生活者」として接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会、外出は自由にさせていただいている。本人を支えるために家族様の協力をお願いして職員と家族様とが連携して本人を支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「当たり前の生活の継続」として本人がこれまで大切にされていた馴染の生活を尊重し支援に努めている。	家族と一緒に墓参りや買い物、外出に行く機会がある。友人、知人の訪問もたまにあり、自室で談笑している。職員は馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を職員は把握するように努めている。気の合う方と一緒に散歩にいくなど。孤立しそうな入居者へは職員と入居者が家族の様に关わるようにし支え合って支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の理由でサービスの利用が終了しても面会に行ったり家族様と連絡等により退所後の様子を聞くなど家族様への支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の要望、思いを把握し「申し送り」「フロアノート」で職員全員が情報を共有し支援しています。	職員は日々、記録している「申し送りノート・フロアノート」で利用者の情報を共有し、コミュニケーションを大事にしている。声掛けや手や背中などのタッチケアで利用者の表情、言葉などから本人の希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人、家族様より生活歴、現在の生活状況を細かく聞き取りを行い介護計画を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状況、意欲、認知症による周辺症状など現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で職員のそれぞれの意見を検討し介護計画の見直しを行っている。その際本人、家族、医師などの関係者の意見を反映して作成にあたっています。	家族の訪問時に本人や家族の思いや意見、要望を聞き、「フロアノート」からも情報を得て、気になった内容をみんなで話し合い、必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の生活状況、気付きは個別記録に記録し職員全員が情報を共有して介護計画を見直しするとともに現介護場での実践に		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の代表者と複数の事業所の管理者で定期的な会議で情報交換するとともに既存のサービスに捉われない柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区福祉の主催する行事に参加をしたり保育所との次世代交流をしている。地域の公園の清掃を入居者と一緒にするなど生きがいをもって安全で豊かな暮らしが出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望をふまえて適切な医療が受けられるように支援しています。また月2回の協力医療機関の医師による往診を受けてもらっている。デンタルクリニックの往診もを受けてもらっている。	契約時に利用者、家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の神経内科と月1回の歯科往診がある。現在、従来のかかりつけ医を継続受信している利用者にも支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の暮らしの中で体調の変化があった場合は記録し看護師による看護、状況に応じてかかりつけ医に連絡を取り指示を仰いでいる。往診も柔軟に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常日頃から連携病院等には訪問したり連絡をしたり行き来がある。入院の際は病院関係者と情報交換に努め入院してからも病院へ小まめに足を運ぶようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期のケアの対応指針を説明のうえ家族から同意書を得るようにしている。医療や家族、職員との連携を密にして最大の支援が出来る体制を整えています。	重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を文書化し、契約時に説明している。ホームとしては重度化や看取りについては可能な限り対応していく方針であるが、医療ニーズが大きく、入院を希望した場合は尊重している。過去に看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な社内研修で緊急対応マニュアルについての意識を高めている。職員は救急救命講習にも定期的に参加をし実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防用設備等は定期的に点検を行っている。職員は災害対策について常に意識を持ち災害時は冷静に避難誘導が出来るように日頃から周知徹底をしている。	昨年は自主訓練を一回実施している。ホーム内は緊急防災システムの導入の中にスプリンクラー、緊急災害直通の設置は整備されている。備蓄は本社がまとめて、現在準備中である。	日頃から家具の固定や避難経路の確認など小さな取り組みの積み重ねや各種災害の避難方法を全職員が日常的課題として認識し、地域との協力体制構築も視野に入れての取り組みが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し相手の心を思いやる話し方などに工夫するように努めている。	年間研修の中に接遇研修を入れて、職員は研修会や勉強会を通じて、意識の向上に努めている。利用者を尊重した対応に心がけている。大事な個人記録などは鍵のかかる書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心して生活して頂くために常に利用者本位で希望や思いを傾聴し本人の自己決定を尊重している。散歩、外出、入浴、散髪等自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は一人ひとりのペースや好きなこと、したくても出来ないことを出来るように支援している。こちら側の都合での援助は出来る限りしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの洋服を家族様にお願いをし用意している。その人らしい身だしなみや、おしゃれを楽しんでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事を楽しむことが出来るように工夫をしている。「パンの日」「お寿司の日」をもうけたり、配膳や洗い物、後片付けは交代でいただいている。家族様と外食に行かれたり職員と外食に出かけることもある。	毎日、提携給食会社よりバランスよい食材とメニューが配送されて、職員と利用者は一緒になって最終調理をしている。週2回は利用者の希望するお好み焼きや空揚げなどの手作りの日もあり、利用者の楽しみとなっている。家族や職員との外食も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事は栄養バランスの摂れたものを提供している。又、体調や状態により個別の対応や本人の好物等状態に応じて提供している。水分摂取も確保できるように一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアの援助をしています。週に1回はデンタルの往診による検診、口腔ケアを実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄状態を把握し随時声かけをしてトイレ誘導を支援している。出来るだけ排泄の自立が衰えない様に、また本人の体調や状態にあった支援を心掛けています。	排泄チェック表で利用者個々の排泄状態を把握してトイレ誘導を促している。出来るだけ現状を維持できるように努め、運動や食事、水分補給など、日々の過ごし方に配慮し、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状態を記録し把握するようにしています。水分摂取、散歩、食事等便秘予防の工夫をしている。看護師、主治医の協力のもと予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や状態に合わせて入浴を楽しめる様に支援している。特に曜日、時間は決めていません。「お湯が沸きましたよ」など親しみやすい声かけをしています。暖簾をかけたり温泉の気分を演出するなど工夫をしている。	入浴は週2回を基本としている。利用者個々の希望を取り入れた湯温、入浴剤などの使用や、暖簾をかけたり、浴室に貼っている日本地図を見ながら 温泉地の話、故郷の話をするなど、個々に沿った入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はフロアのソファー等で自由にくつろいで頂いている。お昼寝も自由にしてもらっている。移動が困難な入居者は居室に誘導し休息をとってもらっている。安心して眠れるように照明、室温、湿度等気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師が入居者の薬を届けにくるので、その時に説明を受け職員は用量等を把握し安全に服薬できるように支援している。服薬による症状の変化も注意深く観察し変化に気づくように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味が自由に出来る環境作りをしています。日々の家事仕事で役割を持つことで張り合いや喜びを持って過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの心身の状態や希望にそって散歩や外出に出かけている。四季折々の行事等には地域の人々の協力のもと普段行けない所へにも積極的に支援し出かけて頂くようにしています。	天気の良い日には健康に配慮しながら、ホームの周辺を歩いたり、近くのイオンモールに出かけて、気分転換を図っている。またホームの前が公園であるため毎日のように、地域の人との交流を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や今までの習慣を大切に家族の了承のもとで少額の現金を持参してもらっている入居者もある。職員と一緒に買物に行かれたり外出時に使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人と希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう積極的に支援をしている。手紙が届いたら本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、時計は入居者が目につきやすい様に所要所にかけている。お風呂、トイレはわかりやすく目印をつけています。ホールの壁に入居者と一緒に作成した季節ごとの作品を飾っている。玄関、リビングには季節ごとの花を飾ったりして居心地良く過ごせるような工夫をしています。	利用者の目のつきやすい所に時計、カレンダー、絵画や利用者と職員で作った季節の作品、行事写真が飾られている。広いガラスの前は四季折々の風景が眺められる公園があり、リビングから顔なじみの知人の姿を見つけると、即公園へ出かけて、談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には一人でくつろげることができるスペースがある。ベランダに椅子を置き天気の良い日は入居者同士が日向ぼっこをしながら話せるスペースがある。ユニット間を自由に行き来し気の合った者同士が過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染の家具や額等、持参されている入居者もおられる。壁には本人の「誕生日会」や参加行事の写真を貼ったり花を飾ったりしていごこち良く過ごせる工夫をしている。	部屋を間違わないように1階は花、2階は鳥の名前を居室入り口に表記している。エアコン、洗面台、クローゼット、ベッド、寝具、チェスト、防災カーテンが設置されている。利用者は整理ダンス、テレビ、位牌などが持ち込まれ、壁には家族写真や手造り花が飾られて、その人らしい居心地よい居室に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー、時計を多く配置し日時が解りやすいようにしている。居室のドアに表札を掛けている。廊下にトイレ、風呂場への矢印を付けて間違わない様に工夫しています。		